

第1回 国道169号 高原トンネル安全対策検討会 議事概要

- 1 日時 : 平成30年12月18日 14:10~15:40
- 2 場所 : JAならけん川上支店
- 3 出席者 :
 - 委員長 (一社)日本建設機械施工協会 施工技術総合研究所長 真下 英人
 - 委員 (一社)砂防・地すべり技術センター 理事 綱木 亮介
 - 委員 国立研究開発法人 土木研究所 地質・地盤研究グループ
 - 地質チーム 上席研究員 阿南 修司
 - 委員 国土交通省 近畿地方整備局 道路部 道路保全企画官 河合 良治
 - (代理出席:地域道路調整官 竹内 智明)
 - 委員 国土交通省 近畿地方整備局 河川部 河川保全管理官 竹中 一滋
 - 委員 奈良県 県土マネジメント部 道路政策官 津風呂 雅彦
 - 委員 奈良県 県土マネジメント部 次長 加藤 仁志
- (欠席)
 - 委員 国立研究開発法人 土木研究所 道路技術研究グループ
 - トンネルチーム 上席研究員 日下 敦

4 議 事

- 1) 経緯について(高原トンネル設置の経緯)
- 2) トンネルの状況(トンネルの変状)
- 3) 周辺地盤の状況(周辺地盤の変動)
- 4) 今後の進め方

主な議事内容

○トンネルの変状

- ・高原トンネル南側坑口から約50m付近を中心に、覆工コンクリートに斜め方向の輪切りの亀裂(せん断亀裂)等の変状が確認された。この亀裂により、トンネルの安全性に問題があるため、通行止めした判断は妥当
- ・確認された亀裂の急激な拡大は考えにくく、前回の定期点検(平成25年度)時との差異を踏まえ、亀裂変位計を設置したモニタリングなど、変状進行を把握する追加調査は必要

○周辺地盤の変動

- ・トンネル周辺地盤は、従前よりダム管理者により計測されており、平成17年の観測開始以来最も大きい箇所では年1mm程度の地すべりによる緩慢な変動が見られる。これらの累積によりトンネルの変状が発生した可能性が高いと考えられるが、今後さらなる調査・検討が必要
- ・なお、周辺地盤の変動要因とそれに伴うトンネルへの影響を把握するためにも、観測地点の追加も含め監視を継続することが重要

○今後の進め方

- ・トンネル変状が発生した原因の究明と並行して、交通開放に向けた検討を進める
具体的には、
 - i : 周辺地盤の変動に関して、既存資料の分析、現地調査等を実施
 - ii : トンネルについては、変状進行の調査とともに、類似事例の調査等を実施
- ・トンネルの交通解放のためには、トンネル変状の進行、周辺地盤の変動を見極め、慎重な対応が必要。早期解放に向け、第2回委員会について、トンネル、地盤・地質の状況、類似事例等の検討を踏まえ、早期の開催を事務局に依頼